

景況感の悪化は一時的なものではなく、今後も続く予想
従業員DIは改善するも売上・業況悪化に伴う不足感の緩和と見られる

■全業種DI (2018年リアルタイム調査 (第13回~14回) のDIの推移)

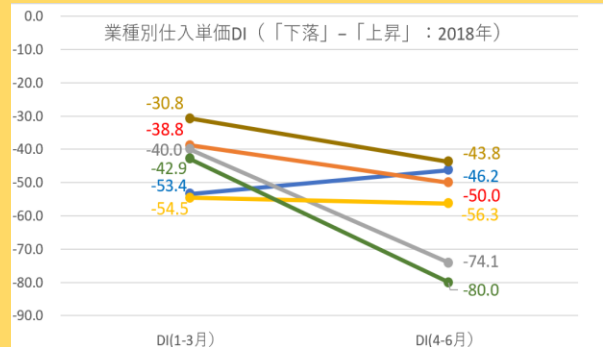
	2018年 1-3月	2018年 4-6月
1. 売上高DIの比較(「増加」-「減少」)	4.6	-4.3
2. 採算DIの比較(「好転」-「悪化」)	0.5	-10.7
3. 仕入単価DIの比較(「下落」-「上昇」)	-43.2	-48.5
4. 従業員DIの比較(「不足」-「過剰」)	12.7	16.6
5. 業況DIの比較(「好転」-「悪化」)	-2.3	-9.8
6. 資金繰りDIの比較(「好転」-「悪化」)	-1.8	-5.5

2018年上期のDIを見ると1-3月は売上高DI、採算DI、業況DI、資金繰りDIで2017年10-12月より悪化し、業況DIと資金繰りDIはマイナスに転じた。従業員DIは改善したが、3月の有効求人倍率が1.59倍と依然として人手不足が続いていることから、売上高減少、採算・業況の悪化に伴う不足感の緩和と考えられる。仕入単価DIは横ばいで推移したものの、マイナス幅が日本商工会議所や中小機構の調査に比べ大きいことから依然として深刻な状況が続いている。

4-6月ではすべてのDIが1-3月よりも悪化した。売上高DIが-4.3、採算DIが-10.7と大幅に悪化し、マイナスに転じた。業況DI、資金繰りDI、仕入単価DIも1-3月に比べ更に悪化。従業員DIも16.6と再び悪化した。日銀短観と同様に川口市の企業の景況感も2期連続で悪化しており、原材料費や人件費を価格に転嫁できない状況が続く限り、売上高、採算の好転も見込めないことから景況感の悪化は一時的なものではなく、今後も続く恐れがある。

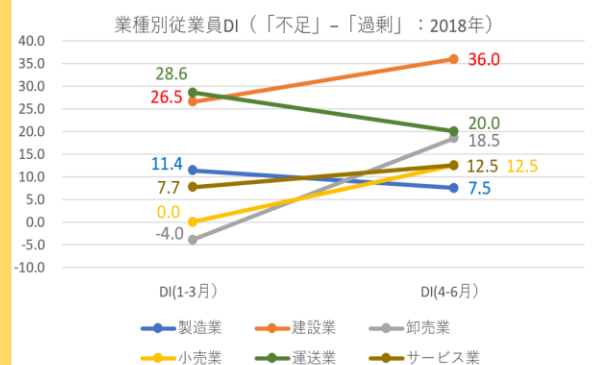
■仕入単価DI 厳しい状況

全体では1-3月-43.2から4-6月-48.5と悪化した。業種別では「製造業」は-53.4から-46.2と改善したものの依然としてマイナス圏で厳しい状況。他の5業種は1-3月から4-6月にかけて悪化し、特に「運送業」は-42.9から-80.0、「卸売業」は-40.0から-74.1と大幅に悪化した。ヒアリングでは「運送業」で**燃油価格が高騰**しており運賃相場上昇でも売価改善が少なく、「製造業」で**鉄材料が前期比10%高**など、仕入価格上昇を懸念する声が多く聞かれた。



■従業員DI 慢性的な人手不足

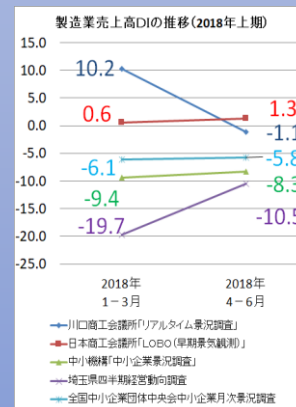
全体では1-3月12.7から4-6月16.6と悪化。1-3月は「卸売業」は-4.0(過剰)、「小売業」は0.0だったが、4-6月は「卸売業」が18.5、「小売業」が12.5とプラス(不足)に転じた。1-3月は「運送業」が28.6、「建設業」が26.5と特に厳しく、4-6月は「運送業」は20.0と好転した一方で「建設業」は36.0と更に悪化した。ヒアリングでも「建設業」は**技能実習生等の外国人に頼っている**が、人手が集まらずに廃業せざるを得なくなる、との声があり深刻な状況。



■業種別売上高DI

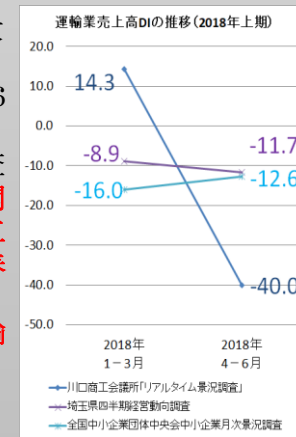
■製造業 中国環境政策で売上好調

17年10-12月は17.3と改善したものの、18年上期は1-3月は10.2と悪化、4-6月は-1.1とマイナスに転じた。ヒアリングでは今期は「**中国環境政策の影響で生産高、売上高は好調**」との声もあったが、中国経済、原材料高、トランプ政権の行方が懸念材料。



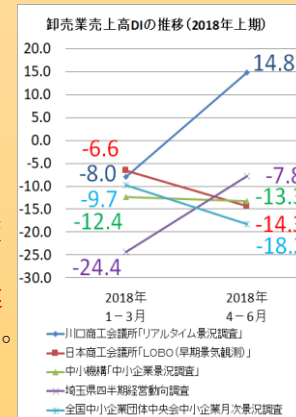
■運輸業 大幅に悪化

17年10-12月は16.7と改善しプラスに転じたが、18年上期1-3月14.3、4-6月-40.0と大幅に悪化しマイナスに転じ、他調査より悪化した。**市内や関東の受注が多く、公共工事中心の建設業が毎年春先に受注が激減することから、建設資材廃材の輸送も影響しているものと考えられる。**



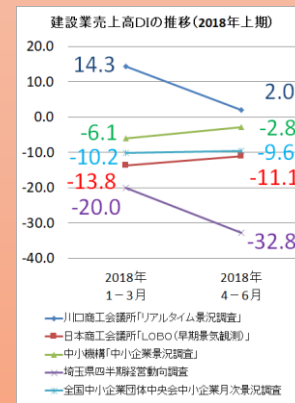
■卸売業 全国的にみても好調

17年10-12月は21.1と改善し他調査を大きく上回ったが、その反動で1-3月は-8.0と大幅に悪化しマイナスに転じた。4-6月は14.8と持ち直しプラスに転じた。他調査がマイナス圏を推移しているのに比べ**市内の企業の好調さが際立っている。**



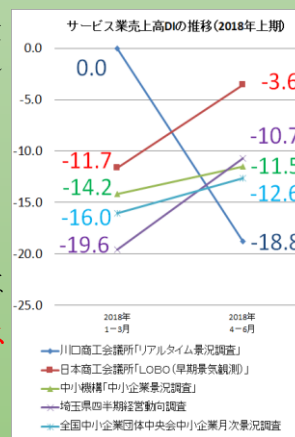
■建設業 市3大プロジェクトで好調も先行き不安

17年下期10-12月は35.6と改善したものの、18年上期は1-3月14.3、4-6月2.0と悪化。しかし他調査がマイナス圏を推移しているのに比べ**川口市の企業の優位性がみられる**。一方、ヒアリングでは「**川口市3大プロジェクト(注1)が峠を超えて次の目玉が見えない**」との声があった。



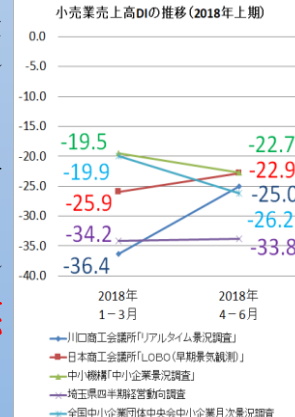
■サービス業 急激に悪化

17年10-12月は20.0と大幅に改善しプラスに転じたが、18年上期は1-3月0.0、4-6月-18.8とマイナスに転じ、他調査よりも大幅に悪化した。他調査のDIは4-6月に持ち直しの動きが見られたことから、市内のサービス業は**全国的にみても急激に悪化している**。



■小売業 全国的に厳しい

17年10-12月は37.5と大幅に改善しプラスに転じたが、その反動で1-3月は-36.4と他調査に比べ最も悪化し、マイナスに転じた。4-6月は-25.0と改善している。他調査も全てマイナス圏で推移し全国的に厳しいが、特に**埼玉県内企業に厳しさがみられる**。



注1)川口市3大プロジェクト:新庁舎建設、川口市立高等学校建設、赤山歴史自然公園整備

■経済レポート概要

川口商工会議所は、市内産業の景況感や直面している課題等を「地域の生の声」として収集分析し、地域事業者の販路開拓に資するとともに、今後の支援策に反映することを目的に、本地域経済レポートを作成する。当報告は、川口商工会議所が単独で行ったリアルタイム景況調査(市内会員の小規模事業者を対象とした四半期に1回実施している調査)を埼玉県四半期経営動向調査、日本商工会議所LOBO調査、(独)中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」、全国中小企業団体中央会中小企業月次景況調査のデータと比較したものである。また、参考として、業界団体や個店、小規模事業者へのヒアリングを実施した。